

授業科目	社会福祉調査特講 Research Method for Social Welfare			担当教員	妻 孝承		
展開方法	講義	単位数	2単位	開講年次・時期	1・2年／前期	必修・選択	選択
授業のねらい							
<p>社会福祉分野の研究においてエビデンス・ベースは重要であり、本講義ではそれに必要な量的・質的研究に関する理論的背景、統計学的手法を学ぶ。また、実践的社会福祉領域の研究は、たとえば各種社会福祉施設・機関の利用者、生活困窮者、特定の地域社会の住民など、現実社会の人々の生活や諸課題に根ざしており、それらの存在を抜きにして研究を進めることはできない。そうした人々（や地域）の生活実態や意識を知ったり、福祉の課題を掘り起こしたり、解決策を探ったりするための方法が社会福祉調査であるのだが、その方法が正確で的確（信頼性が高く科学的）でなければ、効果的な支援・解決には決して結びつかない。本講義では、社会福祉を科学的に捉える視点を獲得することを目指す。</p>							
観点	学生の授業における到達目標			評価手段・方法		評価比率	
関心・意欲 ・態度	社会福祉領域の研究で用いられる様々な研究手法の特徴等について討議することができる。			・参加姿勢 ・課題レポート		10% 10%	
思考・判断	社会の福祉的な課題を科学的に見る視点が身についている。			・課題レポート ・授業での受け答え		30% 20%	
技能・表現							
知識・理解	社会調査の基礎的な知識・概念を説明することができる。			・課題レポート（発表）		30%	
出 席						受験要件	
合 計						100%	
評価基準及び評価手段・方法の補足説明							
<p>「参加姿勢」は、授業への取り組み姿勢を評価する（10%）。また、テーマごとの討議や質疑における受け答えを評価する（20%）。「課題レポート」は、各回の講義において随時課した課題および発表を評価する（70%）。</p>							
授業の概要							
<p>本講義では、“科学”という認識方法の諸特徴を踏まえた上で、社会福祉領域で用いられる様々な研究手法の概要と理論的な根拠を学ぶ。特に論文等を講読しながら各方法を具体的に理解することを通して、社会福祉を科学的に捉える基礎的な視点を身に付け、各自の研究に役立ててもらいたい。</p>							
教科書・参考書							
<p>教科書：指定教科書なし。課題シートを配布する。 参考書：轟亮・杉野勇編（2010）『入門・社会調査法』法律文化社。</p>							
授業外における学修及び学生に期待すること							
<p>①人々の幸せを願う「温かい」心と、客観的な調査や認識（時に「冷たい」とも言われる）は、決して矛盾するものではないことを学んで欲しい。 ②“科学的”な認識は、人間の特定の認識から生み出され洗練されてきたものであり、それゆえ限界も有している。しかし人々の幸福に資するための方法を模索する際に、科学的な根拠や判断は非常に大切であり、かつ効果的でもある。厳密に“科学的”であろうとすることがどれほど難しいかを知り、しかしそれでも“科学的”であろうとする態度を身につけてもらいたいと願っている。</p>							

回	テーマ	授業の内容	予習・復習
1	イントロダクション	講義概要の説明、講義スケジュールの確認、用いる文献を決定する。	予習: 文献を選定する。 復習: 今後の課題を整理する。
2	科学的研究とは(1)	研究の目的と方法の関係性について学び、調査の意義や役割について学ぶ。*社会福祉関連の文献を用いて、目的設定について具体的に理解する。	予習: 課題シートを整理する 復習: 研究の目的と方法の関係性を考える。
3	科学的研究とは(2)	社会福祉調査の考え方と論理について学ぶ。 *自分の修士論文のテーマをロジックに基づいて発表し、お互いに議論する。(第6回目の発表の予告)	予習: 課題シートを整理する 復習: 調査結果からの理論構築について考える。
4	科学的研究とは(3)	先行研究の意義について学び、先行研究と自身の研究の関係性について検討する。	予習: 課題シートをまとめる。 復習: 先行研究の役割や位置づけを考える。
5	科学的研究とは(4)	自身の研究テーマに関連する論文の中、社会調査を用いた文献を発表する。	予習: 関連論文をまとめる。 復習: 科学的認識の特徴を考察する。
6	科学的研究とは(5)	仮説と調査の関係性について学び、仮説設定の方法について知る。	予習: 課題論文を選択する。 復習: 仮説と調査の結果得られたデータの関係性について考える。
7	社会福祉調査における倫理と個人情報保護	社会福祉調査において求められる倫理的な配慮と個人情報保護の原則について学び、倫理審査の書類を実際作成する。	予習: 倫理規定について読んでくる。 復習: 倫理審査会の書類を書いてくる。
8	(共通)方法検討(1) 母集団とサンプリング	全数調査と標本調査の違い、無作為抽出法について学ぶ。	予習: 指定論文を事前に読んでくる。 復習: サンプリングについてまとめる。
9	(量的)方法検討(2)	調査設計: 横断的調査と縦断的調査の特徴について知る。また、質問紙の作成と測定尺度。	予習: 指定論文を事前に読んでくる。 復習: サンプリングについてまとめる。
10	(量的)方法検討(3)	計量調査の概要を学び、帰無仮説、代表値について学ぶ。また、統計調査のメリット・デメリットを知る。	予習: 統計的推測について調べてくる。 復習: 計量調査の課題を整理する。
11	(量的)方法検討(4) 一変数間の関連	変数の種類と分析方法、相関係数、クロス表の作成について理解する。	予習: 変数間の関連について調べてくる。 復習: 母集団、全数調査、標本調査、標本誤差、の概念を学ぶ。
12	方法検討(5) 一質的調査①	質的調査の概要を学び、そのメリット・デメリットを知る。また、質的調査の種類について学ぶ。	予習: 指定論文を事前に読んでくる。 復習: 質的調査についてまとめる。
13	方法検討(6) 一質的調査②	観察法や面接法等の類別、データの記録方法、データの整理・入力方法等について学ぶ。	予習: 指定論文に目を通す 復習: 観察法や面接法等の類別、データの記録方法についてまとめる。
14	方法検討(7) 一質的調査③	質的調査の分析方法について学ぶ。	予習: 事例分析の課題整理。 復習: 事例分析のまとめ。
15	方法検討(8) 一質的調査④	質的調査の分析の例とまとめ。	予習: 比較分析の課題整理。 復習: 比較分析のまとめ。